

第73回役員会 議事要録

日 時：平成27年10月21日(木) 15:00～16:00

会 場：大学本館 E-703会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、片山理事、梶原理事、松尾理事、江本理事
(オブザーバー) 中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長、柳井副学長

報 告

- 1 JICA-北九州市立大学連携「グアテマラ共和国スポーツ・健康振興支援ボランティア連携」について
- 2 教員の採用について
- 3 プロパー職員の採用試験の結果について
- 4 大学広報の取り組み状況について
- 5 AO入試の出願状況について
- 6 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)採択について
- 7 戦略的創造研究推進事業(CREST)の採択について

報告1 JICA-北九州市立大学連携「グアテマラ共和国スポーツ・健康振興支援ボランティア連携」について

<質疑応答>

- 本学だけで12名か。他大学の学生も行くのか。
- グアテマラへは本学のみである。
- なぜ野球なのか。
- 野球のすそ野を広げるためである。
- 近隣では、昨年度から近畿大学がペルーに派遣している。
- JICAは、野球だけでなく様々な分野で海外に派遣している。
- 麻薬の注意喚起は国際化推進室でパンフレット等を用いて行っている。

報告2 教員の採用について

<質疑応答>

- エネルギー循環化学科はどのような分野か。
- 昔でいえば、化学工学である。現在は、それにエネルギー工学が追加されている。
- 循環とは何か。
- 自然循環である。エコのことであり、エネルギーの循環等である。
- 国際環境工学部には、水や土壌の専門はいるが、これまで大気の専門家がいなかった。今回採用となった教員は、大気の専門家である。

報告3 プロパー職員の採用試験の結果について

<質疑応答>

- 倍率は毎年このくらいか。
- 最終合格者数により変動する。昨年度は3名合格しており、倍率は102倍だった。毎年受験者数は300名強である。
- なぜそのように倍率が高くなるのか。
- 公立大学という事もあり、公務員との併願も多い。門戸を広げており、既卒も受験しやすいようにしている。
- 北九州市の採用も同様に門戸を広げている。

報告4 大学広報の取り組み状況について

<質疑応答>なし

報告5 AO入試の出願状況について

<質疑応答>

- AO入試の辞退者はいるか。また、AO入試合格から入学まで期間が長いため、それまでの教育はどうしているか。

- 辞退者については、過去に1名いた。それ以外は入学している。
- 入学前の教育について、英米学科では、入学前に合格者を集めてオリエンテーションを実施し、また課題を課すなどしている。12月に開催するグローバルのシンポジウムにも参加させている。さらに、推薦入試合格者と合わせて、インターネットを介した英語学習を推奨している。
- A O 入試合格者は推薦入試合格者とともに入学前教育を実施しているが、高校卒業までのカリキュラムと重複しており、その調整が課題となっている。
- 他の大学では、合格の時期で学力に差がついているようである。
- 入学後の成績は確認しているか。
- 確認している。
- 差はついているか。
- 現在のところはないと聞いている。入学後、プレースメントテストを実施しており、そこで学力を図り、補修も実施している。
- 国際環境工学部でも同様の取り組みを行っている。
- 文部科学省は現在入試改革を行っているが、そのためには高校教育の見直しも必要である。
- A O の選考では、高校の成績を見ているのか。
- 調査票で確認している。

報告6 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)採択について

<質疑応答>

- 国立大学の多くは、地方に特化した大学のミッションを盛り込もうとしており、国立大学も代表校として多く採択されている。今回、公立大学は3校が代表校となった。
- 補助金基準額が6,800万円となっているが、残り半年の期間でこのくらいは必要か。¥。
- 初年度は、拠点の整備や人員の配置が必要になるため、このくらいは必要になってくる。
- 6,200万円申請しているが、実際にどの程度予算がつくかである。
- 最初にイニシャルコストが必要になってくる。
- 公立大学学長会議の中で、文部科学省の担当課長は、予算はあまり削減しない方針との話であった。

報告7 戦略的創造研究推進事業(CREST)の採択について

<質疑応答>なし